



花豆の里 戸赤



収穫した順に日当たりや通風を考え乾燥させる場所を委ねる



花豆の収穫最盛期

八月から九月にかけて収穫最盛期 毎日畑を巡り取り忘れないようにしている



ひとり何十本も花火がもらえた

お盆の夜 せんじゆ花火大会

お盆の十四日、ふるさとに帰省された方や集落のみなさんが顔を合わせる場があつてもいいのではないかと、の考えから、毎年行っているせんじゆ花火大会に、今年は三十二人集まりました。小さな子どもがいない戸赤にとって、この催しが唯一子どもに逢える機会かもしれません。



おとなも童心に帰ったひととき(青少年健全育成会事業)

【木地の学習No.34】表5は「会津回国年度」として両所をまとめたものであり、その出典も付した。(表5)

年	蛭谷		君ヶ畑	
	主管	出典	主管	出典
天和2 (1682)	大岩右近回国	小椋十三男家文書居所景園覚書		
寛保3 (1743)	篤井神主	元文5 氏子駈帳		
延享3 (1746)	篤井神主	延享元 氏子駈帳		
寛延2 (1749)	篤井神主	延享元 氏子駈帳		
明和7 (1770)			大皇大明神	氏子駈帳 48号簿冊
安永4 (1775)			信州飯田 大藏玄信	氏子駈帳 23号簿冊
寛政7 (1795)			金龍寺	小椋雄彦家文書
寛政12 (1800)				氏子駈帳 29号簿冊

(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (つづく)



日大郡山学生ジャズ研究クラブ9人
やまざくらで交流会(8/6)



戸赤のやまざくら「ふくしまっ子」事業
自然体験・そば打ち体験・木工ろくろ体験など

7月から8月にかけて山桜学校を中心に8回のべ300人が自然体験、木工工作、そば打ち、木工ろくろ体験などに訪れています。水量が多く川遊びができないときもありましたが流しそうめん、スイカ割りなどで楽しんでいます。木工工房での受け入れも2回あります。この事業は、県と町の補助事業を活用し、商工会が会津鉄道と協力しいろいろな体験メニューを考え、下郷町内への誘客活動のひとつとして行われているものです。

残暑お見舞い申し上げます。

各家々の仏様が一緒に帰れるように
夕方時間を決めて送り火をともし村
はずれまでみんなで見送る(赤土)

送り盆



戸赤工区拡幅へ
南会津建設事務所は今年度、一般県道戸赤栄富線・下郷町戸赤工区の拡幅改良に向けた測量調査が調査着手

樹齢100年を超える「戸赤のオオヤマザクラ」が注目され、観光客による交通量が増加していることから、戸赤地内約170区間の幅員狭小、線形不良区間を解消して歩行者の安全確保と交通の円滑化などを図る。今年度は用地測量・調査などを実施して早期事業着手を目指す。

調査に着手する下郷町戸赤地内

8.10付・建設工業新聞会津版

(ストーリー性のある村づくりのために[No.5]・紅梅御前宮乙部は伊北郷檜戸の竜王院にたどり着くと九月十五日、ここで姫君たちの供養を営み、さらに竜王院の山伏を同道して九月二十一日戸石に入り、五郎兵衛宅に宿泊、さっそく紅梅御前のため祠を造営し、竜王院の加持祈祷によって御前神社としてお祀り申し上げたのであった。この小祠は今も戸赤(下郷町)の溪流をへだてた対岸に祀られている。そしてこの溪流を里人らは悲しんだまま亡くなられた紅梅御前をしのんで姫川と呼んでいるが、御前の墓と村との間には橋がない。何回橋を架けても一夜の雨で流されてしまうのだそうである。人目をさけてのつらい旅に、子ども産めずあの世に旅立っていった妃の誰にも逢いたくない心情を汲んで、自然は橋を流してしまうのだと村人らは言い伝えている。そして紅梅御前の霊を懇ろに吊った乙部は二十四日大内に入り、戸右衛門宅に二、三日逗留し、桜木姫の墓に桜の苗木を1本植え、竜王院の加持でここにも桜木霊社をお祀りした。(「会津の歴史伝説—とっておきの33話—・小島一男著」(発行所歴史春秋出版株式会社) 出典) (続く)